

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2294200122		
法人名	株式会社ハウスマガダ		
事業所名	グループホーム瀬名川 1F		
所在地	静岡県静岡市葵区瀬名川1丁目10-20		
自己評価作成日	平成25年9月30日	評価結果市町村受理日	平成25年 11月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaiqokensaku.jp/22/index.php?action_kouhyou_detail_2012_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2294200122-00&amp;PrefCd=22&amp;VersionCd=022">http://www.kaiqokensaku.jp/22/index.php?action_kouhyou_detail_2012_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2294200122-00&amp;PrefCd=22&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 静岡タイム・エージェント		
所在地	静岡県静岡市葵区神明町52-34 1階		
訪問調査日	平成25年 10月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

近年、グループホームは重度化しており職員の負担も多くなっています。職員の心のケアをしつつ、動きやすい環境作りを考え家族様達にも協力を願って共に信頼関係を築き、利用者様にとっても安全で安心して一日が過ごせる様に努め、職員には資格より人格が大事の理念で従事している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「ふじのくに型福祉サービス」の垣根のない福祉を目指して困難な方も受け入れ、管理者の指導の下で一人ひとりの命と生活を大切にしている。食事が困難な方に食材に工夫をして、口から自力で摂取できるように支援し、元気を取り戻され家族に喜ばれた実例がある。家族と近隣の住民で中庭の畑に四季の野菜や花を育てるなど、事業所と家族、地域住民は信頼関係ができています。管理者は尊厳ある人生最後の看取り介護への想いがあり、医師の指導の下で本人、家族に寄り添い家族から感謝される看取りをしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念と共に共有して実践している	「共に生きる」の理念は居間の壁に貼ってあり、パンフレットに載せてある。管理者は職員に、自分の許容範囲を超える前に、声を掛け合って入居者の立場にあったケアに努めるよう伝えていて、職員はお互いに助け合って実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の人達がボランティアを通して交流して頂いている	町内会に加入していて、管理者は地域の行事や会合に出席し、事業所で開く秋祭りには住民の参加が多々ある。町内の方が家族の方と一緒に事業所内にある畑に四季の野菜や花を植えて育ててくれるなどの交流がある。	管理者は「地域の声を聞きたい」「地域の方に利用してもらえる事業所」へと地域密着型の事業所を目指している。近隣の方との付き合いで協力体制が築けるよう、なお一層の環境作りに期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方に一日、数時間施設で仕事してもらい、現場を見てもらい理解していただく様にしている。お互いの意見交換もしている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	問題点等が出た時は、職員と全員で共有している	家族会と同日に、町内会長、民生委員、地域包括センター職員、家族の参加があり10月に開催した。事業所内の状況を説明し、参加者からの意見も多く出て、内容の詰まった会議になっているが、年1回の開催になっている。	管理者をはじめ家族や地域の住民の方も会議の重要性を実感している中、環境を整えて、基準の2か月に1度を目指し開催されることを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	疑問点が生じた時は、常に行政に相談している	生活保護者の受け入れを行っている。市職員、包括センター職員とは管理者と各専属職員が出向いたり、電話で情報交換、報告、相談などをしていて連携は取れている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	常に家族様と話し合いをして、安全面を最優先しており家族様達に理解して頂き(チャイムの音で確認をして対応している)	入居者の命を第一に考え、大腿骨骨折の入居者の方に医師の指導のもと、家族の了解を得て、夜間のみ最低限の拘束をしている。日常のケアの中で「やめてよ」「待ってて」等「スピーチロック」に当たる言葉が気になる時は管理者は勉強会を開き、周知を図っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者及びケアマネージャーが施設内を巡回して虐待防止に努めている		

静岡県(グループホーム瀬名川 1F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	家族様等より質問について制度内容を説明をして専門家を紹介する		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所契約は、管理者及びケアマネージャー等が説明をし、入居及び退去の際は当施設の事務員が手続きを行う		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	管理者及びケアマネージャーが家族様の意見、要望を聞き職員に伝える	家族は面会時や電話等で管理者やケアマネージャーに意見や要望等を伝えている。必要な内容は日誌等に記録し、職員間で回覧し共有している。家族からの「外出時や外泊時にどのような食事を提供したら良いか」等の要望に、家族便りにメニュー表も同封するようにした。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は職員の意見、提案を聞き、話し合いの場を設け個々の話しも聞く様、努めている	フロアリーダー、統括に職員は意見、要望を伝えている。勤務体制の希望等は統括が聞き要望に応えるように努めている。職員から「こんな福祉用具を用意できないか」という意見に皆で考え管理者が手作りして本人に合う用具を提供でき、購入すると高価だった為家族にも喜ばれた。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は勤務状態を把握をし資格より人格を理念としている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内で当施設の利用者様に適した実務研修を行っている(近年、認知症も個々の介護が変わってきた)		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	常に他の施設と交流をもち意見交換している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に家族及び関係者より情報を聞き、フェイスシートで確認して対応している		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	アセスメントを行い情報等を主治医に報告して助言を受け支援に努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	担当者会議を行い支援内容を検討している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護職員が信頼される様に利用者様を尊敬の念で介護のお手伝いができる様に心掛けている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	我々が家族様との信頼関係を築き上げることによって、家族様と対象者様との絆が尚、一層深まることと考えている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族様方には極力、面会に来て頂く様、お願いして本人様の体調を見つつ、来所を考えていきます	近隣の家族や住民が、ボランティアで近所を散歩に連れ出してくれている。通いで来所してくれる理美容の方や入居者同士が馴染みになっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ホールにて過ごして頂き、重度化している中、一人一人をよく把握して併設しているディサービスの場を活用したいと思っています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	家族様と協力をし合い対応をしていきたい		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族様と話し合いの場を設けて本人様の意向を把握して家族様に丁寧に説明をし理解していただき協力をお願いしている	重度化している入居者の個々の思いを把握しようと家族から話を聞くようにしている。食事が済んだ後に「食べていない」と訴える方に食器を片づけず見せたり、大好物のアンパンを少し提供する等して対応している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族様から今までの生活内容等、お聞きしてご本人と関わりのあった人達からフェースシート内容を把握する		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	管理者及びケアマネージャーが施設内を巡回して職員の話し、記録等の把握		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	診療情報提供者及びアセスメントシートを元にチームで検討している	新規3か月、更新6か月、状態の変化があった時、医師からの指導の下、計画を作成している。家族は毎月のお便りにある「生活のご様子」を見て、様子を把握していて、職員は担当制になっているのでケアマネージャーは各担当者から意見を聞いて計画を作り、家族に説明、確認をもらっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	管理者が指導の元、ケアマネージャーと計画作成担当者が介護計画を検討して職員に情報提供し共有している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族様に協力を願い理解して頂き孤独にならない様に支援している		

静岡県(グループホーム瀬名川 1F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内や地域の方々に協力をお願いしている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人様のかかりつけ医があれば家族様と協力して支援している。専門医に関しては、当施設の主治医の指示の元で対応している	入居時に説明をしていて、全員協力医に受診している。月2回の往診日は毎月送る「お便り」で次月往診日を知らせ、医師と面談出来る様支援している。他科への受診は必要があれば職員は家族と一緒に同行して、日頃の状態を説明している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設しているディサービスの看護師が定期的に健康チェックを行い、また、主治医の看護師とも連携をとっている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	主治医の指示で専門医療機関と連携をとり施設が家族様に情報等、支援している		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	主治医の指示の元で支援している。施設、入所時において指針を明記した文書を家族様に説明、理解をして頂いている	入居時に指針を説明して、「心肺蘇生を行わない」等の同意書ももらっている。医療との連携を密にしており、。医師の指示に従い、管理者、家族、職員で寄り添って、看取りを6回経験した。管理者は職員の精神的ケア等、個々に合わせた対応をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の連絡網対応マニュアルを作成してあり全職員で共有している		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の方々に協力を願う体制作りが有り、対応マニュアルが有り職員が内容を周知している	年2回火災、地震を想定した訓練を行っている。地域の訓練には管理者が参加していて、事業所が鉄筋の為、近隣の避難場所に提供している。緊急マニュアルに近隣の方の電話番号も明記、災害時の協力も得られるようになっている。玄関横に通報システムがある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様を尊重しつつ、かつ尊敬の念を心掛け支援している	本人・家族の希望で親しみやすい「・・・ちゃん」等の呼び方で、笑顔が見られたり、話やすい状況になっている。声掛けする時は座って目線を揃え、背に手を添えて安心させるように対応している。居室にはノックして声掛けしてから戸を開けるようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ノーマライゼーションの理念の元、オープンな介護の場の提供に心掛けている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的介護を共有し、職員の思い込みケアをしない様、職員同士が話し合いをしている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者様の意思や家族様の意見を取り入れた援助をしている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	地域のスーパーマーケット等に職員と買物に行ったり、本人様の残存能力を活かした生活環境作りを考えている	朝食は職員の手作りで、昼食と夕食の惣菜のみ同じ建物のデイサービスの厨房から届き、形状の変更はフローアでしている。職員は介助の方が多くなってきている中、一緒には食べていないが、寄り添って様子を確認している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	常に摂取量を把握し、変化が生じた時には主治医に報告し対応している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時、就寝前の口腔ケアの実施		

静岡県(グループホーム瀬名川 1F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを(排泄表にて)職員が把握をしてご本人に声かけする様、努めている	入居後職員の適切な支援で、おむつを外し、屋トイレで排泄が出来るようになった方がいる。トイレに誘導する時、無理強いすることのないように支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々に応じた食の改善等、散歩や水分補給等に日々取り組んでいる		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	気持ちよく入浴して頂ける様、ご本人の希望を考慮しながら支援している	週2~3回午前中に入浴している。自立している方は19時までいつでも入浴可能である。一人毎浴槽を洗い湯を替えている。同性介助の希望は可能だが、重度の方は2人介助で力のある男性が対応している。拒む方に職員を代えて声掛けしたり時間を変更する等の工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の一日を尊重して主治医の指示休息等環境を整えている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医及び薬剤師の指示の元ですべて個人のファイルにデータを綴っており、いつでも確認、把握ができる様にしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	職員が意見交換し提案を出し、その人にあつた楽しみを提供する様にしている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個々の体調を考慮しながら家族様にも協力を頂いてドライブや散歩等の支援をしている	職員と車で買い物に出かけている。家族や地域の方の協力を得て散歩や墓参り、自宅に帰っている。行事として、菊まつりや花見に車で出かけている。	



静岡県(グループホーム瀬名川 1F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族様と話し合いをして金銭管理能力が低下しない様に努めている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の意思を尊重して、出来る限り楽しみが持てる環境作りを心掛けている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	中庭に四季折々の野菜を収穫できる様に庭園を設け家族様達の協力の元、雰囲気作りを工夫している	南向きで明るく広いフロアは採光も良く、日中は窓を開けて風の通りをよくしている。段差が少ないベランダに出て、洗濯物を干す、取り込む等の作業をしている。中庭の畑には四季の野菜が収穫でき、季節の花が咲いている。入居者の作品が壁に飾られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者様の意思で居室で過ごしたり、ホールを開放して入居者様同志が自由に過ごせる場所を提供している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族様にお願いをして馴染みの物を引き続き使っていく様、入居時に話し合いをしている	全室が南向きで太陽光が注ぎ広めの明るい居室である。3.11の大震災の時揺れが大きく高い仏壇や家具が倒れた、消防署の指導で低めの家具等のみ置くようにして、安全面優先で整理されている。仏壇や写真、机等を持ち込んでその人らしい部屋になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の能力が低下しない様に安全に配慮し、残存能力が保てる様な環境作りをしている		

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2294200122		
法人名	株式会社ハウスマガダ		
事業所名	グループホーム瀬名川 2F		
所在地	静岡県静岡市葵区瀬名川1丁目10-20		
自己評価作成日	平成25年9月30日	評価結果市町村受理日	平成25年 11月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [http://www.kaigokensaku.jp/22/index.php?action\\_kouhyou\\_detail\\_2012\\_022\\_kani=true&JigyosoCd=2294200122-00&PrefCd=22&VersionCd=022](http://www.kaigokensaku.jp/22/index.php?action_kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JigyosoCd=2294200122-00&PrefCd=22&VersionCd=022)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 静岡タイム・エージェント		
所在地	静岡県静岡市葵区神明町52-34 1階		
訪問調査日	平成25年 10月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

近年、グループホームは重度化しており職員の負担も多くなっています。職員の心のケアをしつつ、動きやすい環境作りを考え家族様達にも協力を願って共に信頼関係を築き、利用者様にとっても安全で安心して一日が過ごせる様に努め、職員には資格より人格が大事の理念で従事している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念と共に共有して実践している		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の人達がボランティアを通して交流をして頂いている		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方に一日、数時間施設で仕事してもらい、現場を見てもらい理解していただく様にしている。お互いの意見交換もしている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	問題点等が出た時は、職員と全員で共有している		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	疑問点が生じた時は、常に行政に相談している		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	常に家族様と話し合いをして、安全面を最優先しており家族様達に理解して頂き(チャイムの音で確認をして対応している)		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者及びケアマネージャーが施設内を巡回して虐待防止に努めている		

静岡県(グループホーム瀬名川2F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	家族様等より質問について制度内容を説明をして専門家を紹介する		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所契約は、管理者及びケアマネージャー等が説明をし、入居及び退去の際は当施設の事務員が手続きを行う		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	管理者及びケアマネージャーが家族様の意見、要望を聞き職員に伝える		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は職員の意見、提案を聞き、話し合いの場を設け個々の話しも聞く様、努めている		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は勤務状態を把握をし資格より人格を理念としている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内で当施設の利用者様に適した実務研修を行っている(近年、認知症も個々の介護が変わってきた)		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	常に他の施設と交流をもち意見交換している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に家族及び関係者より情報を聞き、フェイスシートで確認して対応している		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	アセスメントを行い情報等を主治医に報告して助言を受け支援に努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	担当者会議を行い支援内容を検討している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護職員が信頼される様に利用者様を尊敬の念で介護のお手伝いができる様に心掛けている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	我々が家族様との信頼関係を築き上げることによって、家族様と対象者様との絆が尚、一層深まることと考えている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族様方には極力、面会に来て頂く様、お願いして本人様の体調を見つつ、来所を考えていきます		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ホールにて過ごして頂き、重度化している中、一人一人をよく把握して併設しているデイサービスの場を活用したいと思っています		

静岡県(グループホーム瀬名川2F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	家族様と協力をし合い対応をしていきたい		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族様と話し合いの場を設けて本人様の意向を把握して家族様に丁寧に説明をし理解していただき協力をお願いしている		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族様から今までの生活内容等、お聞きしてご本人と関わりのあった人達からフェースシート内容を把握する		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	管理者及びケアマネージャーが施設内を巡回して職員の話し、記録等の把握		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	診療情報提供者及びアセスメントシートを元にチームで検討している		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	管理者が指導の元、ケアマネージャーと計画作成担当者が介護計画を検討して職員に情報提供し共有している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族様に協力を願い理解して頂き孤独にならない様に支援している		

静岡県(グループホーム瀬名川2F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内や地域の方々に協力をお願いしている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人様のかかりつけ医があれば家族様と協力して支援している。専門医に関しては、当施設の主治医の指示の元で対応している		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設しているディサービスの看護師が定期的に健康チェックを行い、また、主治医の看護師とも連携をとっている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	主治医の指示で専門医療機関と連携をとり施設が家族様に情報等、支援している		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	主治医の指示の元で支援している。施設、入所時において指針を明記した文書を家族様に説明、理解をして頂いている		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の連絡網対応マニュアルを作成してあり全職員で共有している		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の方々に協力を願う体制作りが有り、対応マニュアルが有り職員が内容を周知している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様を尊重しつつ、かつ尊敬の念を心掛け支援している		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ノーマライゼーションの理念の元、オープンな介護の場の提供に心掛けている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的介護を共有し、職員の思い込みケアをしない様、職員同士が話し合いをしている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者様の意思や家族様の意見を取り入れた援助をしている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	地域のスーパーマーケット等に職員と買物に行ったり、本人様の残存能力を活かした生活環境作りを考えている		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	常に摂取量を把握し、変化が生じた時には主治医に報告し対応している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時、就寝前の口腔ケアの実施		



静岡県(グループホーム瀬名川2F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを(排泄表にて)職員が把握をしてご本人に声かけする様、努めている		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々に応じた食の改善等、散歩や水分補給等に日々取り組んでいる		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	気持ちよく入浴して頂ける様、ご本人の希望を考慮しながら支援している		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の一日を尊重して主治医の指示休息等環境を整えている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医及び薬剤師の指示の元ですべて個人のファイルにデータを綴っており、いつでも確認、把握ができる様にしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	職員が意見交換し提案を出し、その人にあった楽しみを提供する様にしている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個々の体調を考慮しながら家族様にも協力を頂いてドライブや散歩等の支援をしている		

静岡県(グループホーム瀬名川2F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族様と話し合いをして金銭管理能力が低下しない様に努めている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の意思を尊重して、出来る限り楽しみが持てる環境作りを心掛けている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	中庭に四季折々の野菜を収穫できる様に庭園を設け家族様達の協力の元、雰囲気作りを工夫している		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者様の意思で居室で過ごしたり、ホールを開放して入居者様同志が自由に過ごせる場所を提供している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族様にお願をして馴染みの物を引き続き使っていく様、入居時に話し合いをしている		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の能力が低下しない様に安全に配慮し、残存能力が保てる様な環境作りをしている		